

2009年度傷害報告 集計結果

三井晃一

酒井 潤

(財)東京都スキ一連盟
教育本部安全対策委員会
専門委員

2009年度傷害事故集計表

提出312件 受講者数 7593名 受傷者数 31名 受傷率 0.41%

設 問	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数			
傷害保険	01	自己傷害保険	1	02	対人賠償	1	03	対人対物賠償	2		自己+対人	8	自己+対人対物	13	
					対物賠償	1					自己+対物	1			
性別	04	男性	12	05	女性	19									
年令	06	6歳未満	0	07	7-12	2	08	13-15	1	09	16-20	2	10	21-25	1
	11	26-30	0	12	31-40	3	13	41-50	9	14	51-60	6	15	61歳以上	7
技術レベル	16	指導者	4	17	上級者	11	18	中級者	12	19	初級者	2	20	初心者	1
体格	21	大きい	5	22	普通	25	23	小さい	1						
滑走日数	24	0-3	10	25	4-6	7	26	7-10	5	27	11-15	5	28	16-20	3
	29	21-30	0	30	31日以上	1									
休養	31	充分	25	32	不充分	4									
準備体操	33	充分	28	34	不充分	2									
傷害名	35	捻挫	7	36	骨折	5	37	脱臼	0	38	切創	1	39	打撲	8
	40	靭帯損傷	5	41	擦過傷・刺創	9									
傷害場所	42	前頭部	1	43	後頭部	2	44	顔面	1	45	頸部	2	46	肩部	2
	47	上腕部	2	48	前腕部	0	49	手指部	0	50	胸部	1	51	背部	0
	52	腹部	0	53	腰部	0	54	大腿部	2	55	膝部	10	56	下腿部	5
	57	足首	4	58	その他	0									
全治日数	59	7日未満	7	60	8-14	4	61	15-21	3	62	22-30	5	63	31-60	4
	64	61-90	5	65	91以上	1	66	未受診	2						
発生状況	67	講習中	22	68	自由時間	5	69	練習中	2	70	競技中	1			
発生時刻	71	9時まで	1	72	12時まで	16	73	15時まで	8	74	17時まで	3	75	ナイター	0
	76	その他	0												
雪質	77	粉雪	1	78	湿雪	11	79	新雪	4	80	深雪	0	81	ザラメ	3
	82	アイスバーン	3	83	踏み固めた雪	7	84	溶けかけた雪	1	85	その他	1			
斜面の傾斜	86	緩斜面	7	87	中斜面	17	88	急斜面	5						
斜面の状況	89	スムーズ	17	90	キップ・こぶ	7	91	ラフ	5	92	深雪	1			
ゲレンデ状況	93	混雑	0	94	普通	14	95	すいていた	17						
ゲレンデ整備	96	良い	8	97	普通	21	98	悪い	1						
原因	99	自己転倒	29	100	衝突	2									
	自己転倒	101	回転失敗	26	102	人・物の回避	2	103	スビート・オーバー	0	104	技術不足	0		
衝突	105	自分から	0	106	衝突された	2									
衝突相手	107	人	2	108	物(人以外)	5									
相手の状況	109	講習中	2	110	自由時間	0	111	練習中	0	112	競技中	0			
	113	はずれた	19	114	はずれない	12									
調整方法	115	知っていた	24	116	知らない	7									
調整者	117	自分で	6	118	販売店	21	119	指導員	1	120	パトロール	0	121	知人・友人	1
	122	その他・不明	2												
開放強度	123	強すぎ	2	124	適切	27	125	弱すぎ	2						
	流れ止め	126	ブレーキ	0	127	ストラップ	0	128	その他	0	129	無し	0		

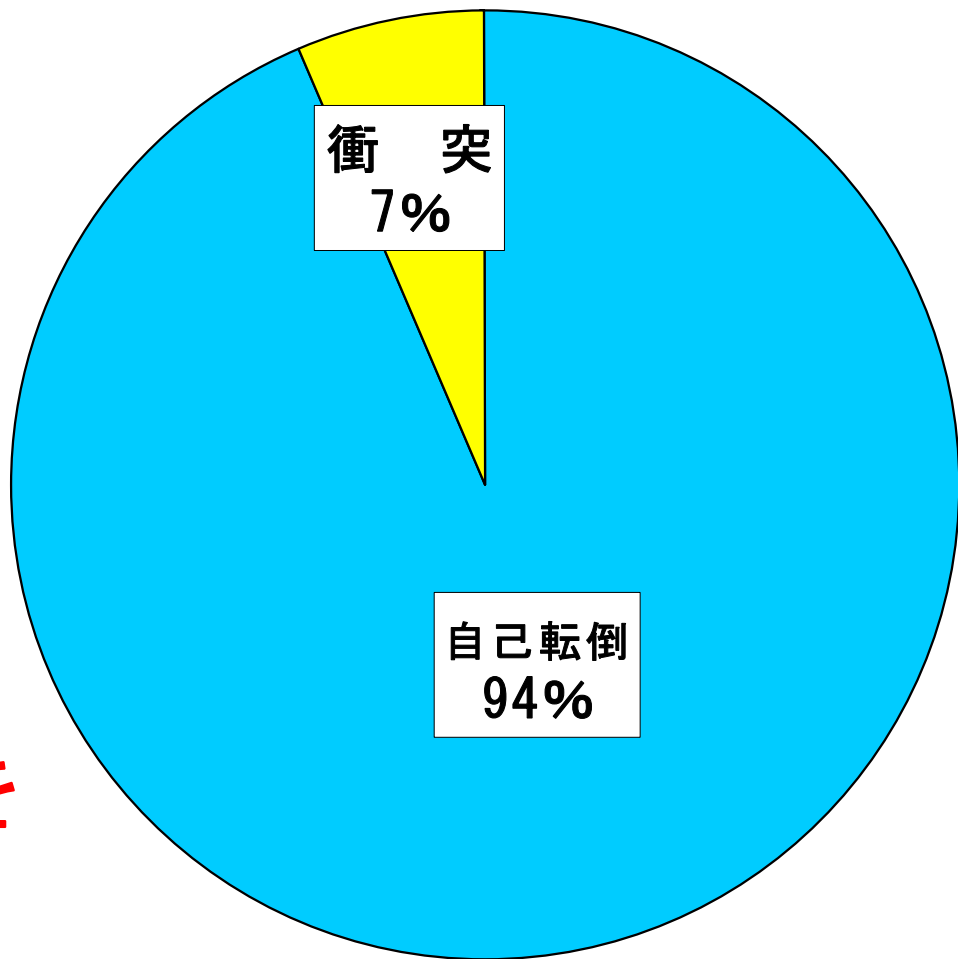
傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

受傷原因

衝突事故減少し、
自己転倒優位が続く

↑
講習中の統計



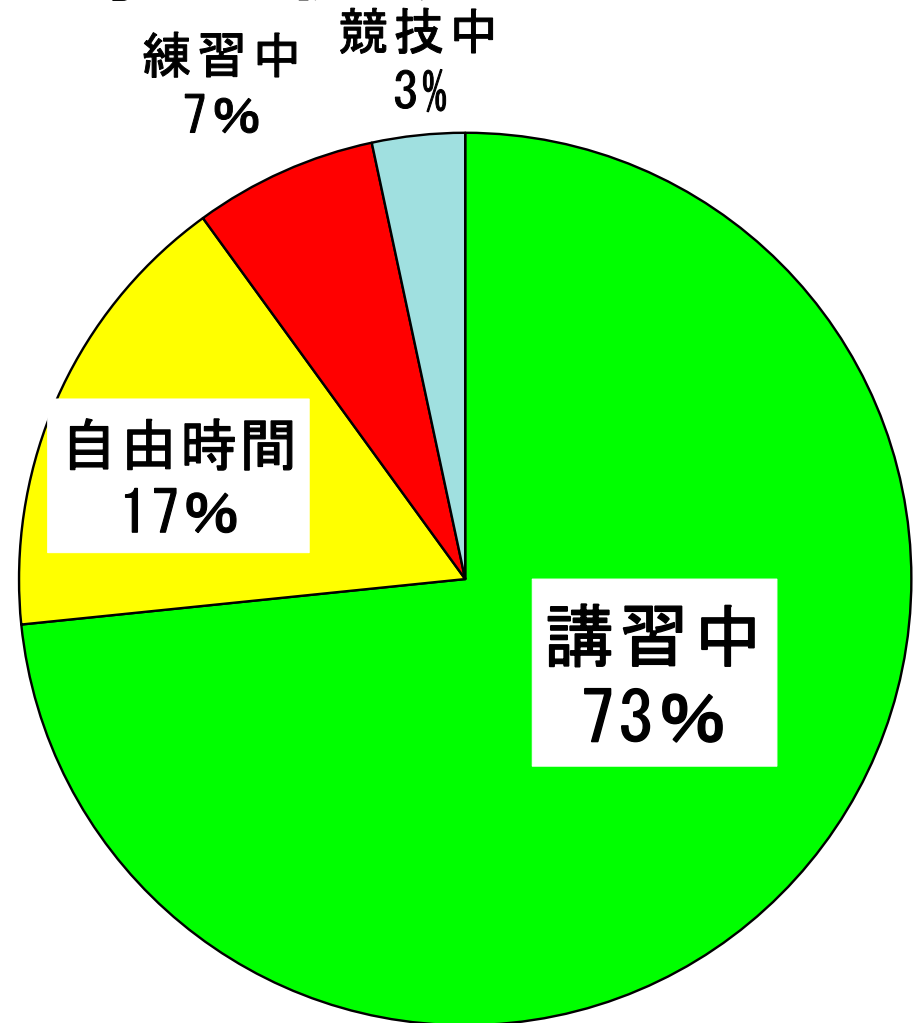
無理のない技術指導を

傷害発生時の状況

- ・講習中の事故が圧倒的に多い
- ・自由時間や練習中にも事故に遭遇



- ・生徒の安全確保を
- ・単独でも事故を防げる技術/安全指導も



傷害事故報告集計

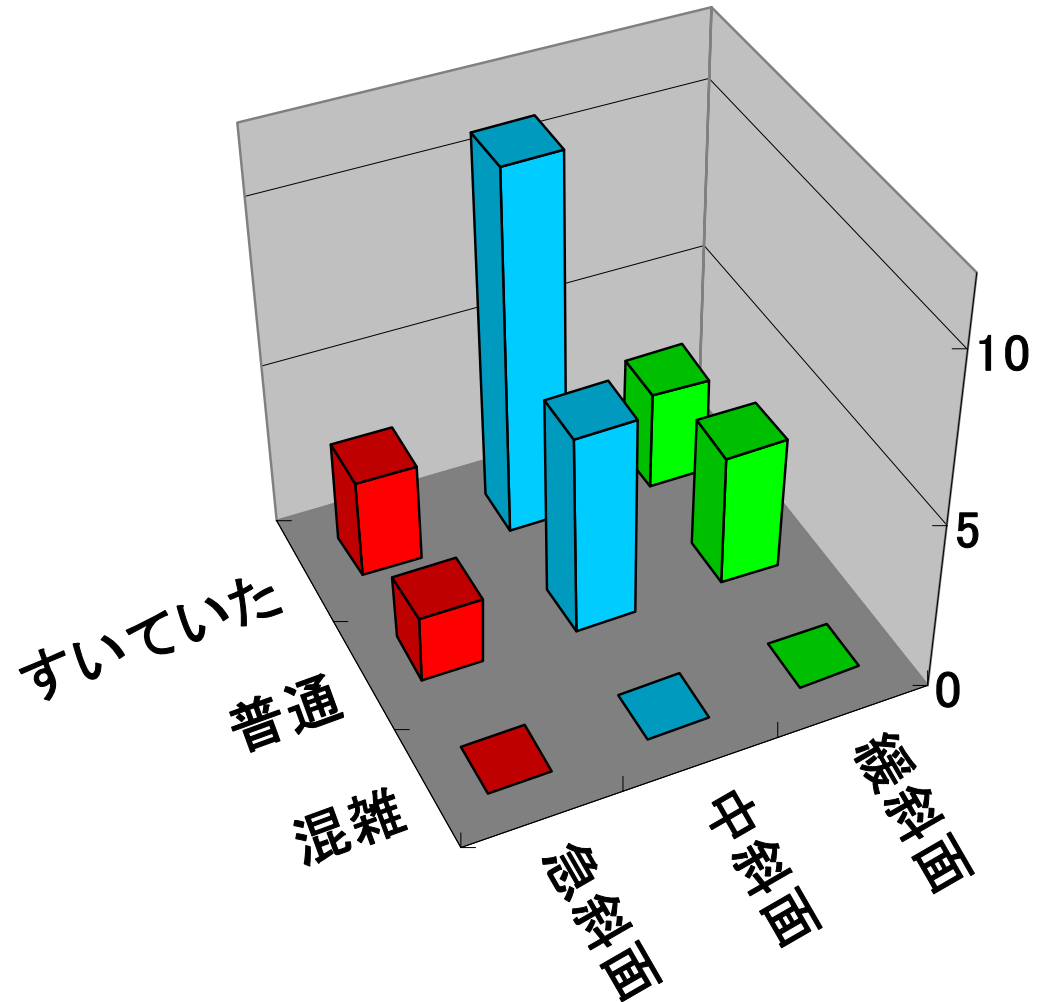
- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

斜度、混雑状況と傷害度数

混雑していない
緩・中斜面
で事故が多い

正しい状況判断

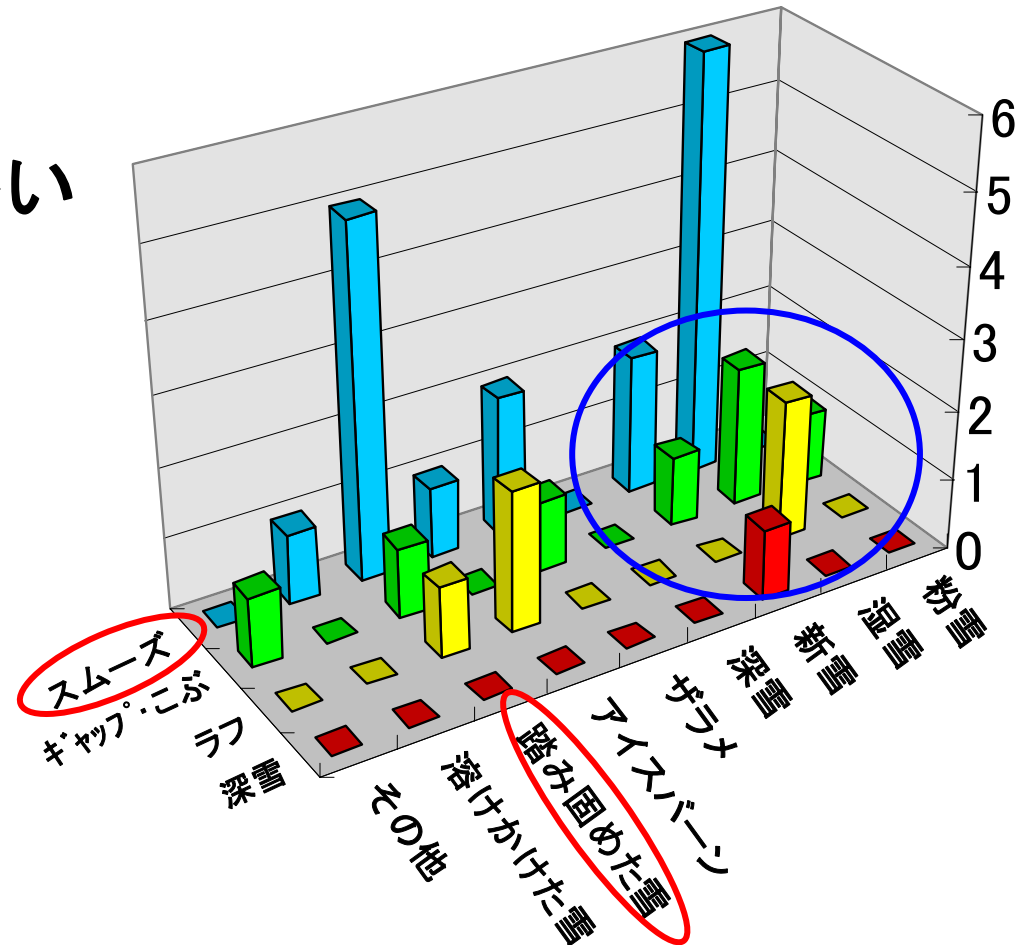
- ・ 課題の与え方
- ・ スタート前の安全確認



雪質、斜面状況別傷害事故度数

- 踏み固めた
スムーズな斜面が多い
- ひねり運動が
難しい状況も
要注意

板をコントロール
する技術が大切



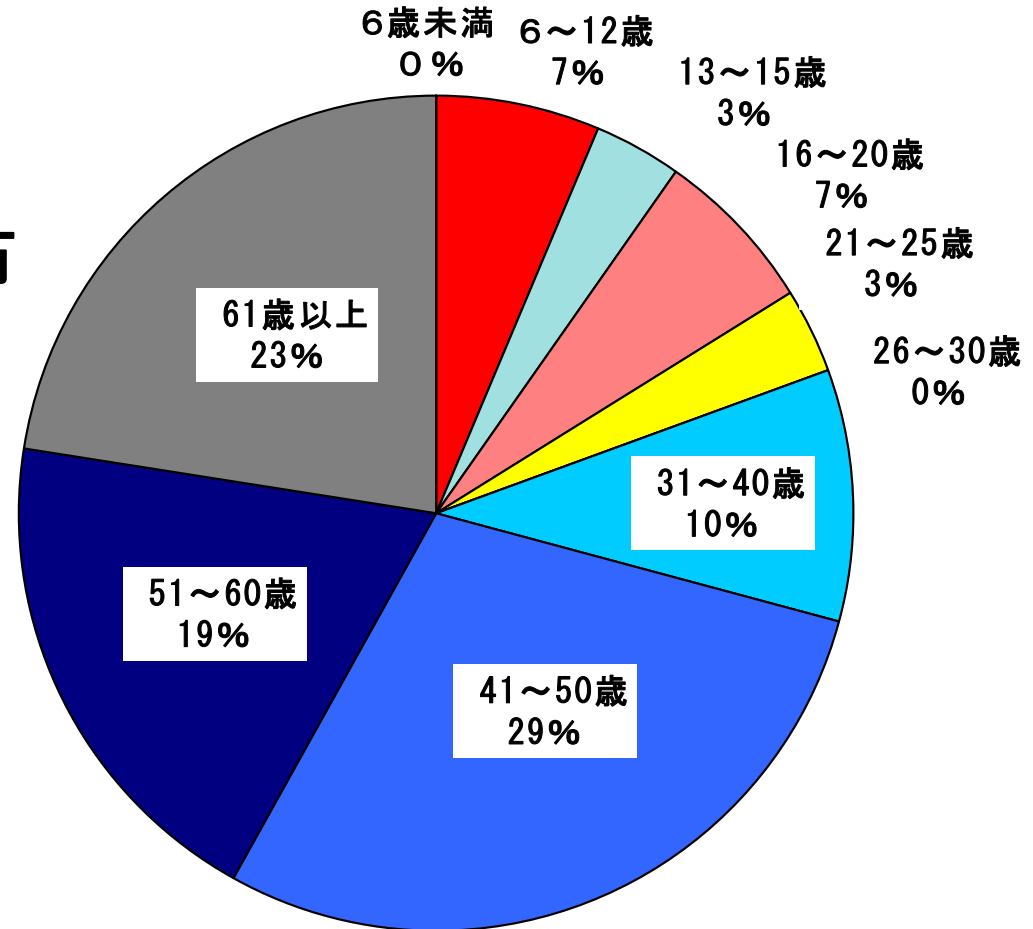
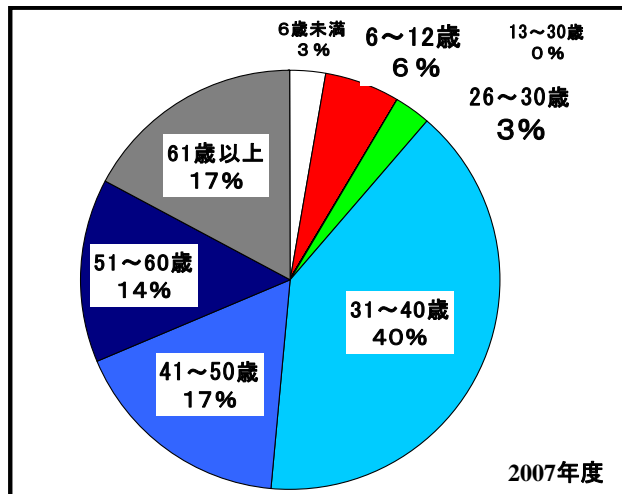
傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

全受傷者に対する年齢層別比率

受講者の
年齢分布を反映して
30歳代から上に広く分布

41歳以上が増加

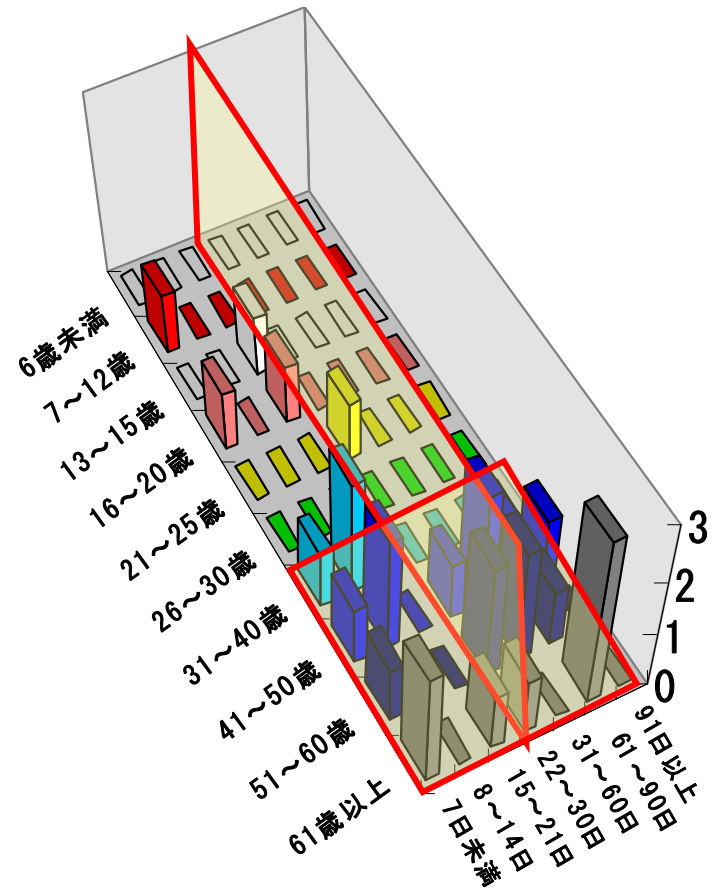


年齢と障害重度との関係

重傷と軽傷とに2極化

若年層に比較し
中高年には重症もある

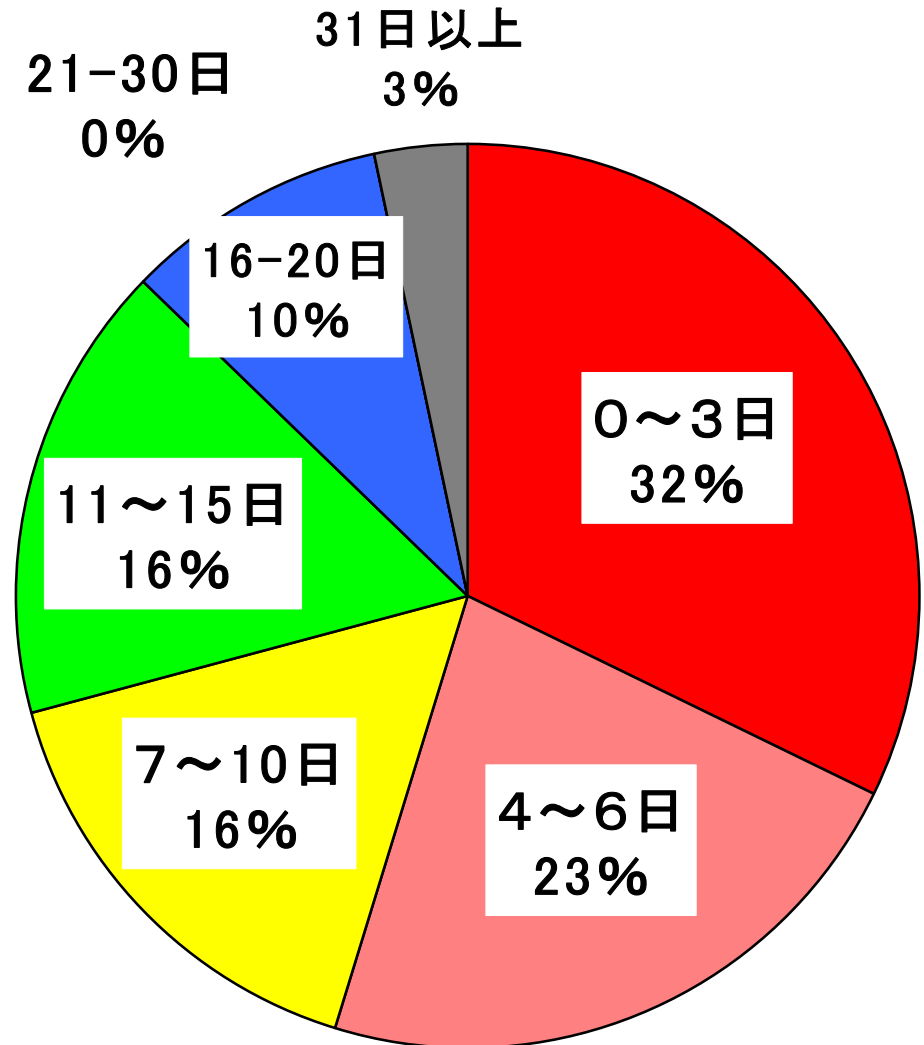
運動能力・体力
自己の意識と
実際との乖離



受傷までの滑走日数

滑走日数が
少ないうちほど、
傷害事故が多い

思い出すまで
無理をしない、
させない

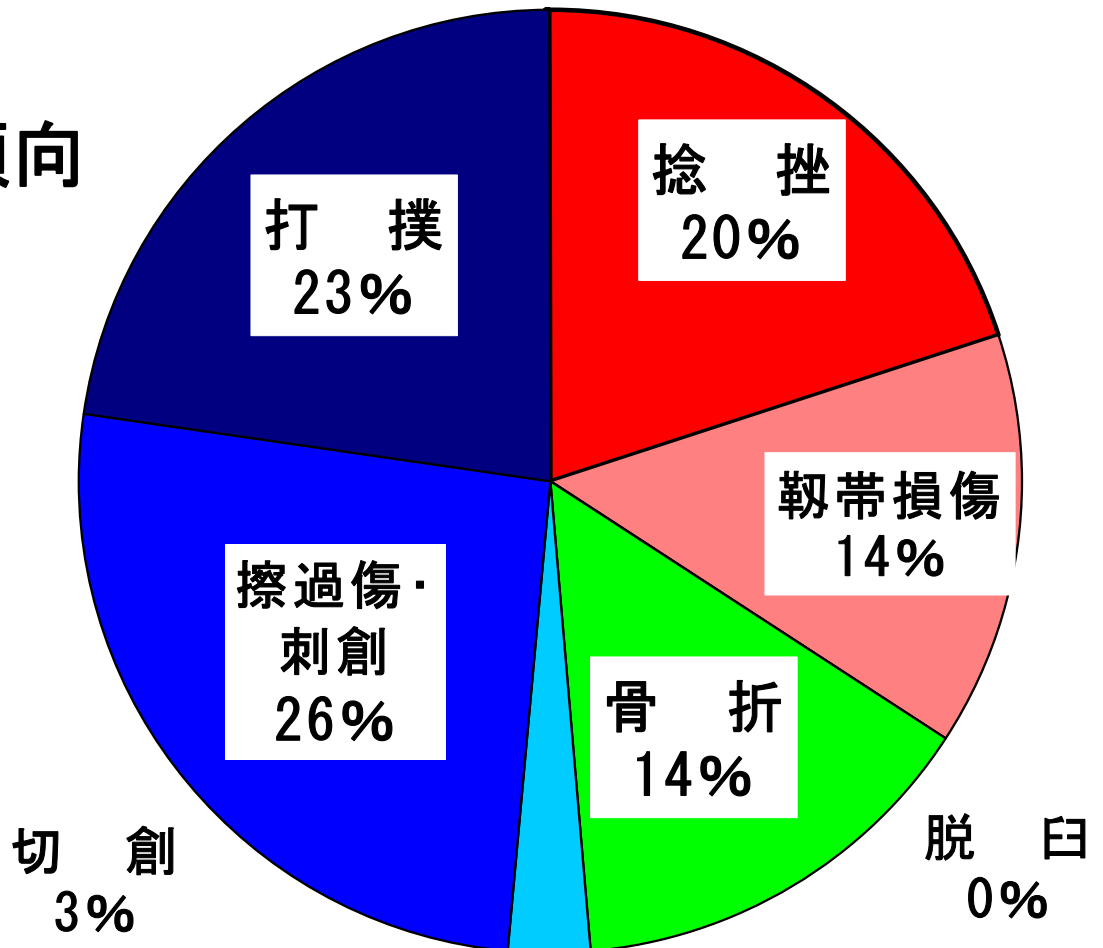


傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

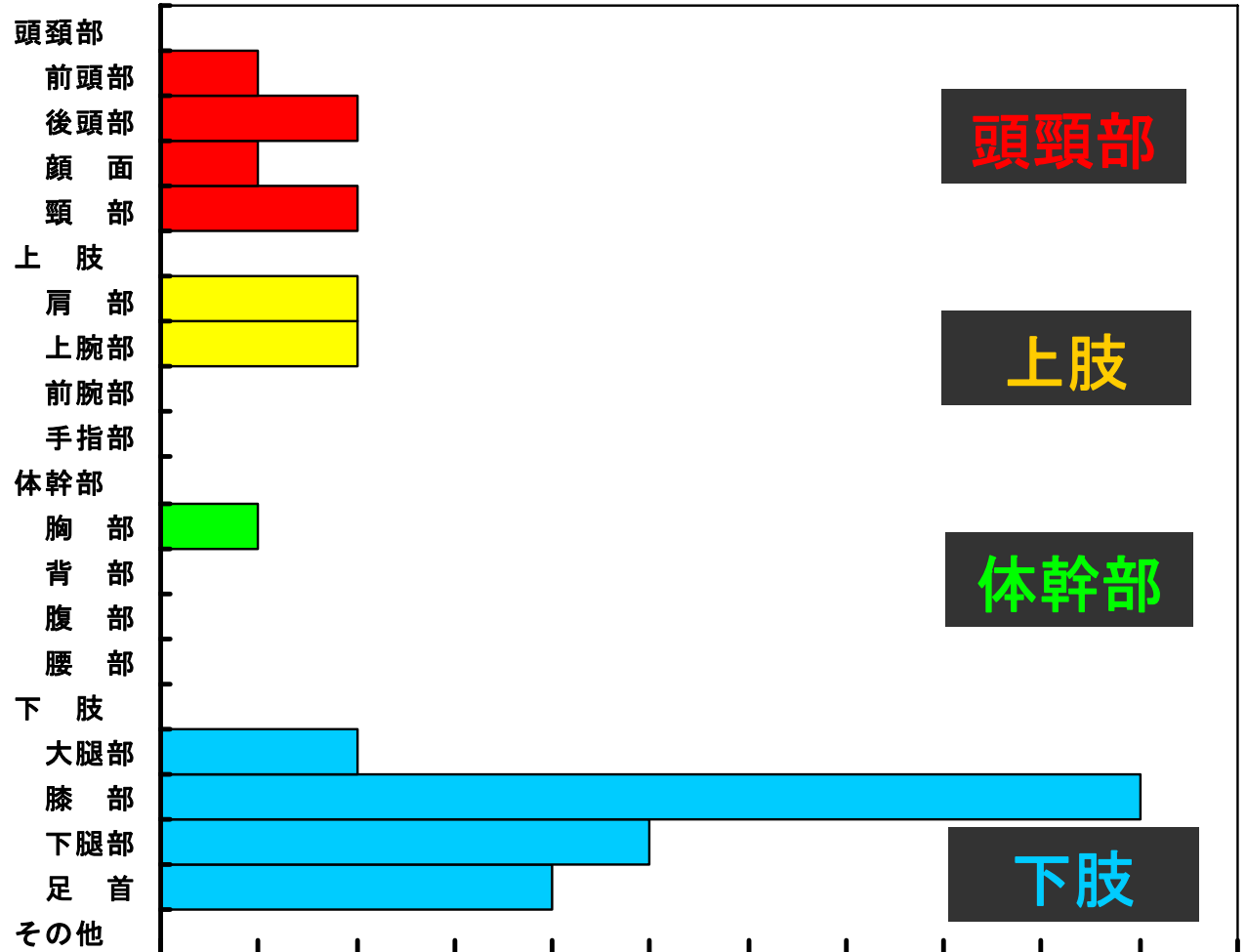
障害の種類

靭帯周囲の損傷の他
擦過傷・刺創が増加傾向



受傷部位

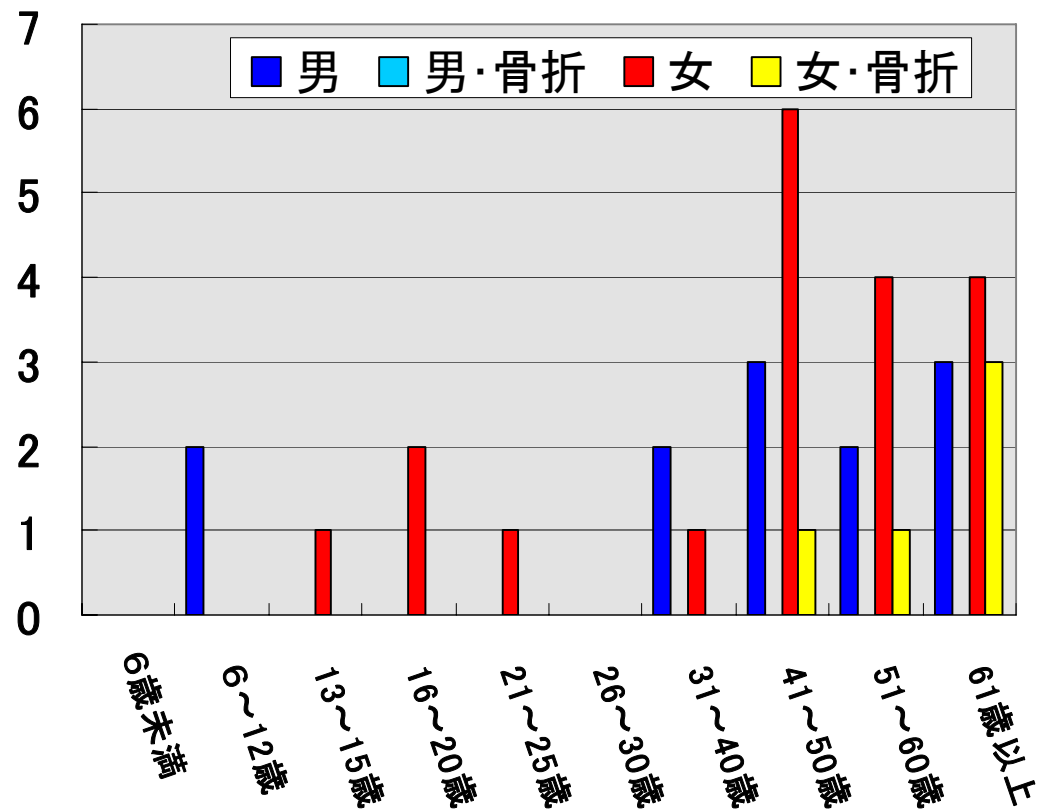
膝の傷害が
非常に多い



年齢別、性別の骨折の割合

女性の傷害事故が多く、骨折も多い。

多様なスキー操作
技術の習得過程で
傷害防止が必要



傷害事故報告集計

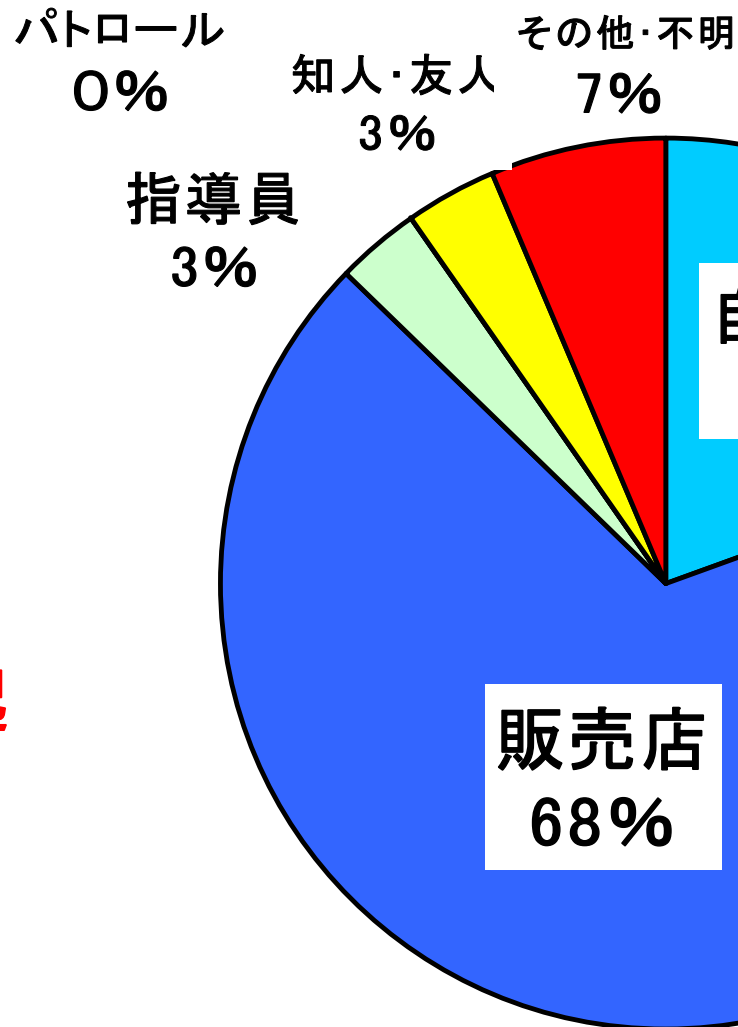
- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

ビンディングの強度

強度は概ね適切

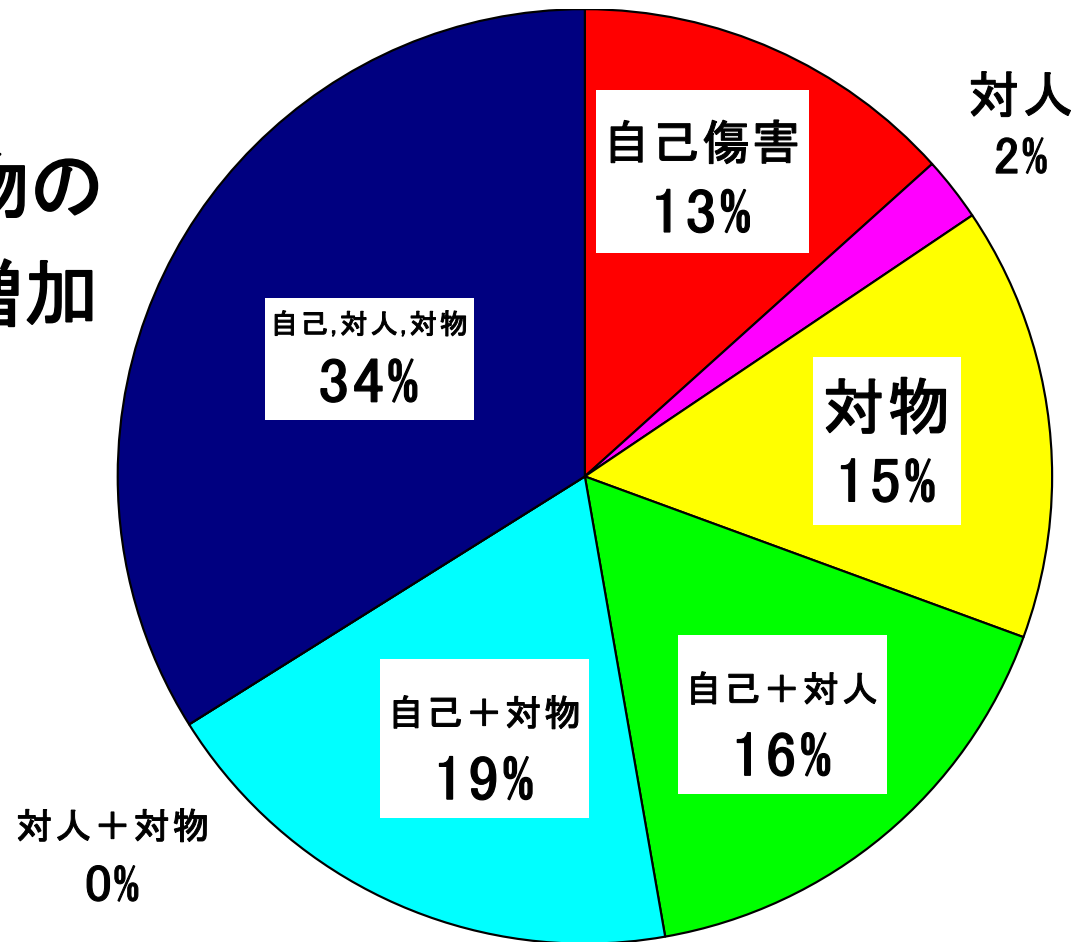
自己責任が
浸透してきた

PL法については
引き続き注意喚起



障害保険の種別

対物のみが減少
自己傷害・対人・対物の
3点セットが次第に増加
掛け金は高くない
3点セットで!!



傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

スキー学校での配慮事項

- 受講生の状況把握の重要性
- 他の講習との位置関係に要配慮
- 混雑していない中斜面、緩斜面は要注意
- 用具の選択、調整の指導
- 適切な保険

指導者の配慮事項

- 指導者は帽子をかぶっていますか？
- 講習場所の安全に配慮していますか？
- ストックを振って合図していませんか？
- 講習中、生徒の技術を超えた技術を使って滑っていませんか？
- 多人数を一列で滑らせていませんか？
- リフトのセーフティバーの正しい使い方を指導していますか？
- 各指導者は事故に対処できますか？
- 事故時の連絡体制を確立してありますか？

A 禁止標識

危険な事態を避けることを目的とした標識で、ある特定の行為を禁止するもの。



禁止の基本様式
中央に黒い記号(又は文字)



① 歩行禁止 ② スノーモビル等禁止



③ スキー禁止 ④ 講習禁止



⑤ ボール禁止 ⑥ スノーボード禁止



⑦ 飛び降り禁止 ⑧ 救助を要するな
(⑦、⑧はリフト標識に使用される)

B 注意標識

注意すべき情状を知らせる際の標識で、警戒して慎重な行動をとるよう求めるもの。



注意の基本様式
中央に黒い記号(又は文字)



① ガクあり ② 右に(左に)合流する ③ 分かれる ④ しくぞくコースとなる ⑤ 左(右)急カーブとなる



⑥ せまくなる ⑦ 狭がり ⑧ 急斜面となる (斜度数字の有無は選択とする) ⑨ 林道の下りとなる



⑩ 降りる準備をせよ ⑪ 降りたら通過せよ(A) ⑫ 降りたら通過せよ(B) (⑩、⑪、⑫はリフト標識に使用される)

C 指示標識

安全の確保を目的に特定の動作を促す標識で、ある特定の行為の許容するルート・区域等の指定を示すもの。



指示の基本様式
中央に白い記号(又は文字)

① 講習よし
講習指定区域

② ボールよし
ボール指定区域

③ 歩行よし
歩行者指定通路

④ スノーボードよし
スノーボード指定区域

D 注意旗

避けべき危険の存在をドライバー・乗客等に標識し、特定作業区域を知らせるもの。



E 救援関係の標示マーク

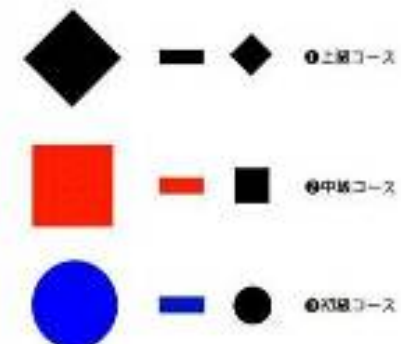
救援施設・救急連絡所・リフト・コントロール等において、救助や救命の指示を伝えるもの。但し、緊急時等で黄色に替える場合は、黄色を白が区別できるようにする。



① バトルール
バトルール連絡所 ② 救急診療所

F コースの難しさを表わす色と形

路線標や案内図に於いて、コースを識別しやすくと同時に、コースの難しさを表わすこととしてスキーヤーの安全を図るもの。通常、色と形を併用した標識を標準とする。但し、標識に於いて色のみを用いて表示方法と、形のみを用いて表示方法と、その標識の形状も異なる。



① 上級コース

② 中級コース

③ 初級コース

報告書：特に重要な記入箇所

安 - 3

財団法人 東京都スキー連盟会長 殿

スキー傷害事故報告書

別紙記入要領を参照のうえ、必要事項を記入し **スキー学校報告書と共に必ず提出**

また、事故発生時は、自傷者1名につき1枚提出してください。

この報告書は、傷害防止対策の資料とします。他の目的には使用しません。

スキー学校認定番号

検定共催番号

団体番号

団体名：

実施期間：20 年 月 日（ 曜日）～20 年 月 日（ 曜日）

実施場所：

道・県 /

スキー場

講習総人数： 名

講習班数： _____ 班 / 1班平均： _____ 名

安全対策担当者氏名：

Q1

傷害事故発生

有

無

→ ご協力ありがとうございました。

傷害事故発生日： _____ 年 月 日（ 曜日） / 天候： _____

報告書：特に重要な記入箇所

傷害事故発生日： 年 月 日（ 曜日） / 天候：

Q2		Q3		Q4		Q5			
Q6		Q7		Q8					
Q9								41→	Q10
Q11								44,58→	Q12
Q13									
								死亡	
Q14		Q15		76→	Q16				
		Q17		85→	Q18				
Q19		Q20		Q21		Q22			
Q23		99→	Q24						
		100→	Q25		Q26				
				106→	Q27				
Q28		Q29		Q30		122→	Q31		Q32
Q33		Q34							
Q35									
Q36									

ご協力ありがとうございました。